

令和元年度 第2回 蕨市公民館運営審議会 会議録

開催日時	令和元年11月29日(金)午後2時00分～3時50分
会場	南公民館 2階 ラウンジ
出席者 (順不同)	大鷲輝国会長(議長)、園川泰子副会長、松原由紀恵委員、笹恵子委員、小西政勝委員、山田由紀子委員、中村和弘委員、宮寄直子委員、村川奈津子委員、高野眞由美委員、朝倉伸行委員、長谷川昭委員 12名 加納克彦(中央)・岡部次男(東)・星野尚子(西)・野田智之(南)・鈴木啓文(北)・大山麻美子(下蕨)・井田誠(旭町)各館長、松永祐希課長・竹田有里係長(生涯学習スポーツ課)、瀬口正浩係長(中央、書記) 10名
	<合計>22名
欠席者 (順不同)	中捨文子委員、土肥仁美委員、小澤俊子委員
主な 添付資料	資料1、令和元年度 第1回 公民館運営審議会 会議録(案) 資料2、令和元年度 各地区生涯学習フェスティバル実施報告 資料3、改訂第3次 蕨市生涯学習推進計画について 資料4、平成31年度 第3回会議での資料提示要望事項
会 議 内 容 (要 旨)	
<p><公民館運営審議会> 午後2時00分 開会 議 事</p> <p>①前回会議録の承認 ②報告 (1)平成31(令和元)年度 各地区生涯学習フェスティバル 実施報告について (2)改訂第3次 蕨市生涯学習推進計画について (3)その他 *配布資料のうち、次第②(3)の「R元年度…」は「H31年度…」に訂正</p> <p>1、開会 ※傍聴希望なし。</p> <p>2、あいさつ 大鷲会長 開会あいさつ</p> <p>3、議 事 ①前回会議録の承認 資料1『令和元年度 第1回 公民館運営審議会 会議録』(案)をもとに事務局から説明、質疑なく承認された。 ②報告事項 (1)資料2『令和元年度 各地区生涯学習フェスティバル実施報告』について事務局から説明。 委 員：南公民館の「第一中学校生徒のボランティア協力」は、どういう生徒が来館しているのか。毎年、参加者数は同じか。</p>	

事務局：学校が全生徒にチラシを配布して募集しており、いわゆる「ボランティア証明書」が発行される。部活動や試験日程などにより、半日だったり全日程だったり、自身に都合に合わせての参加で、人数や顔ぶれは年度によってさまざまである。

委員：他の館にも同様に来ているのか。

事務局：第二中学校には打診していない。

委員：東中学校には打診したが、都合がつかなかった。

委員：他の館も導入したほうが良いと思うがどうか。若い世代の出入りは望ましいこと。

事務局：その通りだが、現代の中学生は忙しい。現状では「ボランティア協力」以外にも、作品展示や舞台発表への出演などで、なんらかの参加はしている。学校側の都合もあることなので、声掛けを継続していく。

委員：ボランティア参加は、進学時などの内申点にも反映される。

委員：「ボランティア証明」が出る活動とそうでないものがある。

委員：自分が活動しているパソコン関連の事業でも、第一中学校パソコン部が協力してくれている。

(2) 資料3『改訂第3次 蕨市生涯学習推進計画』について事務局から説明

委員：たいへん細かくできている資料である。量が多いので今すぐにはすべての意見は出づらいかも。市民意識調査結果で「公民館（のサービスや事業内容など）を知らない・わからない」との回答が6割程度なのは、宣伝の必要性を感じた。

委員：公民館では無料や低費用の事業は多いにもかかわらず、それでも自由記述でさらに「無料」「低価格」を望む声が多い印象だが、広報が足りていないのかなと思う。「知らない」という人がこんなにもいる事実が、ここ数年変わっていないのは残念。

事務局：回答者の属性では、前回調査時よりも若年層の回答がわずかだが上がっているにもかかわらず、Q18での「インターネットで部屋の予約や講座の申し込みをしたい」という回答が半減しているのは不思議。前回調査時期よりもネット関連機器自体の普及は上がっていると思うのだが。

委員：ボランティア活動は、仕事を持つ現役世代が参加しづらいのは、比較的時間に余裕のあるシニア世代と比べて仕方がないこと。この調査結果の内側に隠れている年齢層ごとの回答を見てみたい気がする。前回・今回と並列しているこのような表記方法は時系列での変化がわかるのでよいことである。「行いたい」「現在行っている」ボランティア活動への問いで「企画・運営に携わる活動」との回答がけっこう多い印象だが、どのような活動をイメージしているのか？

事務局：例としては「わらび学びあいカレッジ」などのように、市民自らが講座の企画や運営を行うスタッフなどのような活動を指している。

(3) 資料4『平成31年度 第3回会議での資料提示要望事項』について

委員：施設のネット予約について、スポーツ施設は貸し出しの意味合いが強いが、公民館はそれとは少し違い、窓口での住民と職員との接点を大事にしなければならない施設である。実際に施設を訪れ、窓口でのやりとりを通して、職員は地域や住民のことを、また住民は市のことを知ることができる。そのひとつの場が公民館である。そうした点で、ネット予約もいずれは導入せざるを得ないと思うが、難しい面があるのではないかと思う。

委員：スポーツ施設とは違うのは分かるが、アクティビティ（施設や団体活動の様子など）はいつもで見学することができ、それで分かる。現在、稼働しているスポーツ施設の予約システムに公民館を追加するのが、コスト的には、いちばん折り合いがつくのではないか。春日部市の予約システムは近隣市住民でも使えるようである。そうした例のように、近隣市と共同運用するといった方法も、利用者拡大策としてとれるのではないか。蕨市で稼働しているスポーツ施設予約システムのコストは、全体や1件あたりにするとどの程度か。

事務局：詳しい数字は、今は持ち合わせていないが、導入時に600万円程度、また、システムの使用料として毎年、200万円程度だったかと記憶しており、次回会議時に改めてご提示したい*。市のシステムの対象施設は、錦町の富士見公園野球場・テニスコートで、塚越公園内野球場は予約状況の照会のみで運用を開始した。その後、信濃わらび山荘を追加している。これとは別に指定管理者運営の市民体育館の予約システムが稼働している。これらの施設は、比較的若い年代の人の利用が多く、開庁時間帯の手続きが難しいため、導入要望が多かった。その一方で、普段はネット環境を利用しないという人たちからは導入を望まない意見も多かった。今は、大きな問題なく運用している。

*事務局付記／蕨市の予約システムはH27.2月に稼働開始、H29.3からはわらび山荘を追加。導入当初の経費は560万円強、山荘追加時に100万円強、毎年、システム使用料として230万円強。ネット環境のない人のために、市庁舎3Fと北町公民館（市民体育館）・東公民館に各1台の来館者が使える端末を用意している。各施設のおおむねの利用具合（それぞれ統計の方法・単位などが異なる。また、すべての利用がネット予約とは限らない。出典は「統計わらび」）は、ここ数年では、年間で、富士見・塚越野球場（運動公園）が1,500件、錦町スポーツ広場は1,029時間、わらび山荘は2,500人前後。

委員：ここ10年で、ネット環境は変わってきている。ネット予約導入は不可避である。

委員：システム導入はコストと、窓口での顔を合わせたのやり取りとのバランスが大事かと思う。公民館施設の利用割合（稼働率）は、7館のうち、上昇しているのは1館だけ。

委員：システム導入は、すぐには無理でも、せめて、部屋の予約の入り具合や空き状況だけでも見られるようにできないか。

委員：戸田市や川口市の施設も利用しているが、他市では、遠い施設を利用しようとする「なぜ、近い施設を利用しないのか」と、施設から尋ねられる。システム導入と窓口での直接のやり取りとは、じっ

くり考えていかないといけない。

委員：部屋の空き状況がネットですぐに見られると利用しやすい。

委員：さきほどのアンケート結果で「公民館を知らない」という人がいるが、先日の台風時の避難所開設などの、いざという時のためにも、施設を知ってもらわないとならない。

委員：公民館が、どんな役割で、どのような人・年齢層に来てもらいたいと考えているのか、そうした点を踏まえての事業展開や運営が必要。利用率は、そう上げないでも、使いやすい施設であることを望む。

委員：各団体は定例活動時に利用時間を固定してしまっているため、仮に、ほかの時間帯が空いているとしても単純には変更しない。そうした活動や利用の時間配分は複雑。

委員：各館ではさまざまな事業や活動がされているなか、調査結果では、「どのような活動（事業）があるのか分からない」との回答は残念に思う。情報発信はしているのだが。どんな方法がよいのかすぐには思い当たらないが、発信方法は別の切り口も考えて「分からない」「知らない」といった回答が減っていくようになるとよい。

委員：単に利用率のアップだけではないという意見に賛成。本当の「あるべき姿」「ビジョン」が必要。それがないため、議論が散漫になってしまう。

(3) その他

委員：10月の台風19号時に、公民館や小中学校などが避難所になった。様子はどのようなだったか。

事務局から、避難所の様子などを説明。

午後3時49分 園川副会長 閉会あいさつ、閉会